

訪問団報告書

「たくさんの初めまして」

【氏名】 藤井 葵

今回のヴォルフラーツハウゼン市訪問はたくさんの初めてを経験しました。ヨーロッパに行くこと、ホームステイをすること、ドイツの街並みを見ること、ドイツ語を話すことなど思い返すと全てのことが初めてでした。

飛行機の中では、ホストファミリーの名前覚えられるかなから始まり、たくさんの不安がありました。しかしそんな不安は1日ですぐに無くなりました。これはホストファミリーやヴォ市の方のおかげです。初めてホストの家へ行った時には、リビングのドアに「いらっしやいませ」と書かれた紙が貼ってありました。他にも「おかえり」「いただきます」「おやすみ」などたくさんの日本語を勉強して、私を受け入れてくれました。何も話さなければ伝わる可能性は0%だと考え、簡単な単語や翻訳機を使い、今の自分にできる最大限の努力をしました。ホームステイの後半には日本について説明したり、今日あった出来事を話したりと日本で過ごすのと同じ会話ができたことが嬉しかったです。ホストファミリーと毎日一緒に食べる夕食は、今回の研修で1番楽しかったです。今日あったことを話し、どのソーセージが1番美味しいのかを会議をしたり、みんなでパリオリンピックをテレビで見たりなど日常なことではあるが、家族の一員として過ごすことができたのが私にとってすごく特別な時間でした。



この研修では毎日たくさんの予定があり、ドイツの建物、自然、食べ物、宗教、歴史、教育など多くのことを学ぶことが出来ました。建物に関しては、リンダーホーフ城の見学が記憶に残っています。豪華な建物や噴水の裏には決して華やかな歴史だけがあるわけではないことを知り、ルートヴィヒ2世の心情などをさらに読み取れるよう勉強を重ねたいと感じました。



1 週間過ごした中で 1 番衝撃だったのは、子どもたちの高い言語力やドイツに関しての知識の豊富さです。どの見学場所でも多くの方が英語で説明をしてくれました。そんな彼女たちはまだ 12 歳や 14 歳など私よりもいくつも歳下の子たちです。自分は日本について英語で説明できるのかと考えるとかなり難しいと思います。来年は私が日本について入間について教える番です。今回私がたくさんのことを学べたと感じたように来年はみんなに日本について知ってもらい、興味や関心を持ってもらいたいです。そのためにこれからも学びを続けていきたいと思いました。

今回の研修は、ヴォ市の方の温かさに触れ、多くの友人との出会いを作ることができました。これは入間市やヴォ市、交流協会など多くの方の支えがあつてのことです。本当に感謝しています。ヴォ市やドイツの学びを続け、多くの方に恩返しできるよう頑張っていきます。これからも素晴らしいヴォ市と入間市の繋がりを発展を心から願っています。ありがとうございました。



訪問団報告書

「ドイツで過ごした一週間」

【氏名】 金田 千紘

ドイツでの一週間は、私にとって貴重で忘れられない経験となりました。初めての海外訪問だったため緊張していましたが、ヴォルフラーツハウゼン市の皆さんが温かく迎え入れてくださり、安心して過ごすことができました。写真を見返すたびに、その時の思い出が鮮やかに蘇ります。この訪問は旅行でも留学でもないからこそ、現地の方々と一緒に行動し、生活や考え方を直接知ることができたため、深い学びへと繋がったと思います。

特に、ホストファミリーと過ごした時間はとても印象に残っています。一緒に食事をしたり、文化や言語について教え合ったり、カードゲームやオリンピック観戦を楽しんだり、充実した時間を過ごすことができました。また、ホストファミリーの子供たちと一緒に折り紙や紙風船、けん玉などで遊び、日本の伝統文化に興味を持ってくれたことが嬉しかったです。お互いに英語が第一言語ではなかったため、会話が難しい場面もありましたが、ホストファミリーは私の話を一生懸命聞いて理解しようとしてくれました。ドイツに第二の家族ができたようで、本当に嬉しかったです。帰国してから定期的に連絡を取り続けており、ドイツで築いた絆は今も続いています。



今回の訪問では、ドイツの自然や歴史的建造物、伝統料理など五感で楽しめるさまざまなプログラムが用意されており、とても貴重な体験をさせていただきました。教会や西洋の城を実際に見るのは初めてだったので、その歴史や建築を学べたことは興味深かったです。ホストファミリーとの一日ではバイエルンの農村生活が保存、展示されている Glentleiten に行き、生活様式や伝統文化などについて学びました。パン作り体験や鍛冶屋の作業見学、ダンスパーティーなどを実際に見て

体験することができてとても面白かったです。この訪問を通して、ドイツの文化や歴史、言語についてもっと知りたいという思いが強くなりました。また、訪問期間中にはドイツの方々と日本の文化について話す機会が多くあり、日本や入間の文化の素晴らしさを改めて認識することができました。

この一週間は本当にあっという間でしたが、ヴォルフラーツハウゼン市の皆さんとの友好関係を深めることができたことをとても嬉しく思います。今回の訪問を通して得た経験は、私にとって一生の宝物です。また、この訪問を通して出会ったすべての方々に心から感謝しています。今後もこの素晴らしい友好関係が続いていくように、日本に訪問団が来てくださる際には、私も温かく迎えたいと思います。貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。



訪問団報告書

「ホームステイとドイツでの実体験」

【氏名】 近藤 壮輔

私は、初めは「ホームステイ」というものに対して不安感がありました。母語が英語の方と会話した最後の機会が小学校の Assistant Language Teacher との会話だったからです。それゆえ「自分の英語が現地の人と通じるだろうか」とか、「きちんと自分から話せるだろうか」などという今となっては愚考とも考えられるものがありました。しかし牧野さんに実用英語技能検定(英検)準 2 級持っていれば大丈夫と言われたのを後押しに行くことを決意しました。

プログラムが始まり、ホストファミリーである Fritz さんと対面した時、やっと現地に着いたという実感が湧いてきました。ホストマザーである Dagmar Fritz さんが市の同行職員として昨年青少年と共に来られた時に、一緒に食事をしながら会話をしたからです。

まず家に着いてから知ったのは、息子さん(自分と同年代)が EU 圏内の国で海外旅行中だということ、娘さん(20 歳前後?)がミュンヘン市内に友達と住んでいるということでした。EU 圏内の旅行がどれだけ簡単かを知りました。その後、ホストファミリーの方が来週から海外へ旅行へ行って(国名は忘れてしまいましたが EU 圏内の国です)、その後ホストファーザーはイタリアへ、息子さんはスペインへ旅行に行くことを聞いて尚更驚きました。たまに自分がわからない単語やその他フレーズなどがあると解説してくれたり、ドイツ語の家族内の会話を英語で教えてくれたりしました。また、息子のエリアスは帰国後一緒に買い物に行ってお土産は何がいいかと聞くと、このお菓子は国内でとても人気だ、とかこれはとても健康に悪い、これは味がとっても悪いなど細かく教えてくれました。



お別れ会前日が家族の中のことで一番記憶に残っています。その日はツアーから帰ってくると、家ではバーベキューコンロが用意されていました。その後、一緒に湖へ行かない?とホストファーザーに言われ、エリアスと彼の友達?と一緒に 4 人で森の中へ入って行きました。ずっと線路沿いを歩いて、その後高台に着くととても眺めがよく、イーザル川からヴォルフラーツハウゼン市を一望で

きました。そこからまた 20 分くらい歩き、イーザル川と運河の合流点まで歩き、そこから運河沿いに歩いて湖へ行きました。その湖は、とても浅く、広がったため、たくさんの人が泳いでいました。その後家に戻ると、娘さんとホストマザーが料理(サラダや生肉)を用意していて、ホストファーザーが焼いてくれた肉を食べました。ホストマザーが昨年日本に来た時に買ったスパイスソースをつけて食べました。なぜこれを買ったのかを聞くと、この瓶に書いてある顔が面白かったから、と言っていました。



このプログラムを通して、ヨーロッパ圏に住む方々のライフスタイルや考え方、そして学習の記録にある環境についても大いに学ぶことができました。また日本にはない視点を学ぶこともできました。雄大な自然にも感謝を込めて。



訪問団報告書

「ドイツでの変化」

【氏名】 篠崎 快

ドイツで過ごした 1 週間はとても忘れられない期間になりました。私にとって初めての海外で何もかも不安で緊張の多い 1 週間でした。しかし、とても得ることの多い時間になりました。

昨年、この青少年訪問事業をホストファミリーとして体験したことで英語や外国人との交流についてとても興味を持つことができ、1 年前は家に来てくれた青少年と英語であまり対話をする事ができず申し訳ない気持ちが募りました。その後英語で自分の言いたいことを伝えたいという思いを胸に 1 年間英語の勉強をがんばりました。それによって私は忘れられない思い出を、ドイツ人のホストファミリーや職員の方々と作ることができました。帰国してから今まで、撮った写真を見返してしまいます。私はドイツに住んでいる人たちの家にホームステイできたことに恵まれていると感じました。なぜなら、ホテルで泊まる場合は、ホテルに着いてしまったら英語も話さず日本語だけで会話を行ってしまうことに加えて、ドイツに関することや歴史、さまざまな情報を知ることができなかったと考えました。ホストファミリーとの生活を通して実際に自分がドイツに住んだことの想像ができて、ドイツ人の習慣や文化と一緒に過ごすことで感じることができました。日本の文化しか知らず、日本でしか住んだことのない私にとってこの経験は自分の考えや価値観が変わった境界になったと私は思います。ホストファミリー宅では自分の国のことや自分の身の回りについてを共有しあったことで、自分のまわりについて共有する機会があまりなかったのもとても新鮮でした。

私はこの訪問事業を通して最も興味を持ったことはドイツの歴史についてです。ドイツにはさまざまな興味深い歴史があり、学校で学んだこともありましたが実際に教会やお城などの歴史がある施設に行くことや、話を聞くことで知識がさらに頭に残りました。ドイツには迫害が行われてきたアウシュビッツ収容所などの歴史的な場所やベルリンの壁などが残っているため、次ドイツに行く時はただの観光ではなくて勉強も一緒にしたいです。

1 年間英語を本格的に勉強していましたが、言葉の壁があることに不安を感じていましたが、ホストファミリ



一の優しさや積極的に会話をしようという気持ちを持っていたことで言葉の壁を簡単になくすことができました。ホストファミリーが私たちのためにさまざまなことを尽くしてくれたので、来年自分がホストファミリーとなった時に青少年に良い思い出を持ってもらい、日本、入間市はとても良い場所だということを感じて欲しいです。

訪問団報告書

「最高の経験」

【氏名】 金子 柚良

私はこれまでにオーストラリアや韓国、台湾へ行った経験があり、それぞれの国の文化や料理を楽しむことができたので、今回のドイツへの訪問もとても楽しみにしていました。

現地に到着すると、ヴォルフラーツハウゼン市の方々やホストファミリーが温かく迎えてくれました。ホストファミリーと初めて会った時は緊張していたため、上手く話せませんでしたが、ホストファミリーから「疲れてない？飛行機で寝られた？お腹空いてる？日本では何してるの？趣味は？」などと色々なことについて話しかけてもらえたことで、一気に緊張がほぐれ、初対面でしたがすごく暖かい家族だなと感じました。ヴォルフラーツハウゼン市の皆さんもとてもフレンドリーで、楽しい初日を過ごすことができました。

私はドイツの歴史的建造物や、日本庭園に興味があったため、今回ミュンヘン新市庁舎やマリエンプラッツ、リンダーホーフ城へ行き、実際に自分の目で見る事ができて、とても感動しました。また、ドイツで初めて知ったこともありました。それは「マイバウム(5月の木)」というものです。これは5月1日に地域の方々が作り建ててお祭りをするという伝統的な文化です。この木はチームで協力して建てるため、団結力が高まり、仲が深まるきっかけにもなると聞きました。

さらに、5月1日の6週間前から、その町の子どもたちは隣の町の青少年たちが盗みに来る可能性があるため24時間体制でこの木を守らなければならないことや、もし木が盗まれてしまうと、隣町のビールを買わなければならないということを教えてもらい、こうした文化を体験したことがなかったのでとても興味深く感じました。

この木はドイツの様々なところに建っているため、ドイツ滞在中色々なマイバウムを見ました。地域によって異なる魅力のあるマイバウムを見ることができ嬉しかったです。





ホストファミリーも本当に優しく、本当の家族のように接してくれたので毎日楽しく過ごせました。1 日だけホストファミリーと過ごす日があり、その日はサプライズでノイシュバンシュタイン城に連れて行ってくれました。想像より遥かに大きいお城、中に入ってみると 100 年以上前に建てられたとは思えないような綺麗な作りでした。まさか、行けるとは思っていなかったなのでノイシュバンシュタイン城に行くことができすごく嬉しかったです。

このドイツ訪問では、これまでにない新しい体験をすることができ、私にとって非常に充実した 9 日間となりました。ホストファミリーをはじめ、ヴォルフラーツハウゼン市の方々や違うホストファミリーの子たちとも仲良くなることができとても良い経験になりました。



訪問団報告書

「かけがえのない 9 日間」

【氏名】 湯浅 凜花

ドイツの方と友達になること——それは私の長年の夢でした。幼い頃から、ドイツに住んでいたことのある祖父母の話に耳を傾け、ドイツの文化や人々への憧れを育んできました。また、音楽の発祥地としての深い歴史に触れるたび、その地に行きたいという思いはますます募っていきました。そのため、その夢が叶った今回の 9 日間のホームステイは、私の人生においてかけがえのない特別な時間となりました。

ヴォ市で迎え入れてくれたのは、温かく親切なターラー家の皆さんでした。初日、ホストファミリーの家に入ると、部屋のドアには「ドイツへようこそ」と書かれたプレートが貼られていました。そのささやかな心遣いに、長旅の疲れが一瞬で消え、胸がいっぱいになったのを覚えています。2 日目の夜には、お父さんが焼きそばを作ってくれました。それだけでも驚きだったのに、日本のお箸まで用意されていたのです。異国の地での暮らしは初めてでしたが、その一つ一つの行動が、安心感と喜びを与えてくれました。

ホストファミリーとの日々は、まさに夢のようなものでした。私と同年のルイスが車を運転し、彼の恋人イエレナや一番仲良くなったヘレンと一緒に、スキー場のアスレチックや田園風景が広がるドライブに連れて行ってくれました。お互いに知っている曲を歌い合いながら、車に揺られていました。窓の外には赤い屋根の家々や教会の鐘の音が響く美しい風景が広がります。その光景はあまりにも絵画のようで、瞬間瞬間がとても楽しくて、、、目に心に焼き付けようと必死になりました。

また、日常生活を共にする中で、旅行では見えない文化の違いを肌で感じることができました。4 日目、ホストファミリーが「東京の一人暮らし」というドキュメンタリーを録画しておいてくれ、一緒に観る機会がありました。政治について意見を求められる場面もあり、日本人特有の「自分の思想を表に出さない傾向」について考えさせられる瞬間がありました。緊張しながらも自分の言葉で一生懸命に伝えと、拙い英語ながらも真剣に耳を傾けてくれる彼らの姿に勇気づけられ、「通じ合えた」と感じる喜びを何度も味わいました。

一緒に折り紙を折ったり、浴衣を着てもらったりといった文化交流もしました。逆に私もドイツの民族衣装ディアンドルを着せてもらいました。



9日間で1番心に残っているのは、湖で家族全員と過ごしたひとときです。笑い声が湖畔に響く中で、自然と心が通じ合っていくのを感じました。午後9時頃、湖畔で夕食を楽しみながら眺めた夕日。オレンジがだんだん消えていき深い青になっていく、、、その移り変わる美しさに息を呑みました。そのとき撮った写真は、私の一生の宝物となりました。



「あなたには、もうドイツに家族があるでしょ」

帰国の日、ホストファミリーがかけてくれたこの言葉に、思わず涙が溢れました。この9日間で築いた友情と絆は、何ものにも代えがたいものでした。この経験を通して、私の中で「つながる」ということの本当の意味を知ることができました。この機会を与えてくださった皆様に、本当に感謝いたします。



訪問団報告書

「人生初の経験」

【氏名】 舘越 彩香

私はこの夏、人生で初めての経験をたくさんすることが出来ました。

そのうちの一つがホームステイです。初めての渡欧に加え、初対面の方の家に滞在することに最初はとても緊張し不安を感じていました。しかし、空港にお迎えに来てくれたヴォルフラーツハウゼン市の方々や歓迎会で出会ってすぐに私の荷物を持ってくれたホストファミリーのおかげですぐに不安は消え仲良くなりたいと思うようになりました。

日程が進むにつれホストファミリーやファミリーの友人たちと仲良くなり3日が経つ頃には本当の家族のようにホストマザーに希望を伝え、ホストシスターと遊びに出かけるようになりました。毎回の夕食でその日の出来事を話し家族とコミュニケーションをとる輪に自分が入れたこと、当然のように私を家族の輪に入れてくれたことがとても嬉しく心が温くなりました。



二つ目の人生初の経験は異文化を見つけることです。

旅行だけではなかなか経験することのできない細かな異文化を学ぶことが出来ました。ドイツの学校に実際に訪れたり、ホームステイを通じて家庭料理や普段の生活を知ることが出来たことが面白かったです。ドイツのアパートは日本と違い庭付きの部屋が一般的であったり、オーブンが多くの家についており郷土料理もオーブンをを使うものが多いこと、朝はなるべく火を使わずに簡単なもので済ませること、日本よりも家族や友人の絆を大切にし友人関係や恋人との関係を家族にオープンに話すことなど日本との違いを見つけることが楽しかったです。

また日本との共通点を見つけられたことも面白かったです。日本ではギャグを言い滑ったときに「寒い」と表現しますがドイツでもギャグが滑ると「cold」と表現しており意外な表現の一致に驚きました。



今回の派遣事業で様々な自然や施設を訪れ、ドイツの歴史や人々の考え方、生活を学ぶことが出来ました。学校の授業やインターネットで調べるだけでは得ることのできない人の温かさや自然の素晴らしさ、伝統的な建造物の美しさなどを学ぶことが出来とても貴重な経験になりました。

今回の学びは私にとってとても価値のあるものになったと感じています。

